

平成 30 年度第 6 回（175 回）

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 31 年 1 月 15 日午前 10 時から

場 所：アミュービル4階 アイレック 会議室 1、2

出席者：勅使河原功治、本庄佳緒里、浅見良子、有戸英明、景山剛治、
木元祥恭、福本徳昭、小糸清美、根岸静代、石崎勇仁、奥澤礼子、
村野澄夫

事務局（市民協働係長、企画課主事）

欠席者：赤川都、阿部由紀子、沖山由行、小寺和幸、菊谷多恵、渋谷敏夫
吉松治任、山崎聖

<配布資料>

- 1 平成 30 年度第 6 回（第 175 回）清瀬市まちづくり委員会次第

1 開会

2 前回の確認

委 員：ここで発言されたことが詳細に記載されていない。全員から発言を頂いた内容が記載されていないように思う。

事務局：毎回審議内容はしっかり記録している。今回は音声もとる。

委員長：修正点はあるか。ないようであれば了承でよいか。

<委員 了承>

3 提案の審議

委 員 長：前回の審議踏まえ、様々な意見がでたことから本日の会議を行うにあたり、委員長、副委員長、事務局で打ち合わせを行ったので、その内容を説明する。

ボランティアとは無償であるという考えがある。ポイント制度ということはいわゆる有償ということになり、シルバー人材センターで行っていることと変わらないのではないかと。

ポイント制度の採用より、ボランティアができる地域の人材をどのように発掘するかが議題ではないか。

ポイント制度の議論が中心になってしまっているが、ボランティアをするための土台をしっかりとる方が大事なのではないかという意見になった。

平成17年度に類似する提案が出ていた。この提案も踏まえ根底の課題であるボランティアを行うための土台づくりを考えないと、結論が出ないのではないかと考えた。

事務局：提案の根底にあるものはボランティアがいかに活動できるかであると考えている、ボランティアを活性化するための一つの方法として、ポイント制度を活用するのはどうか。という提案だと思う。

副委員長：ポイント制度に話が行きがちだが、ボランティアのあり方が根底にあると思う。それを基準に話し合いたい。

委員：地域通貨ピースの会員から話を聞いた。活用しているのは50名程度である。利用するには相互扶助なので、お互いがマッチングしないといけない。

副委員長：清瀬には、ボランティアをできるが活動していない人たちがまだいると思う。ポイント制度にすることで、多くの人に関われるとの提案であるが、ボランティアの土台について話し合いたい。

委員：ボランティアポイント制度に対しては見送るということではいいか。

委員長：見送るということではない。

委員：健幸ポイントは市が絡む活動である。市が行う事業にはポイントがつくが民間や市民団体が行っている健康関連の事業にはポイントがつかない。健幸ポイントは国の財源を使っている。財源は今年で終了と聞いている。継続するかはわからないが、市の財源だけでは継続は難しいと思っている。また、ボランティアの形も様々である。市の事業を手伝うボランティアや民間で行っているボランティアがあり、一律にポイント制を振り当てるのは難しいと思う。今回の提案は回答としていいと思う。

委員：以前配布された資料にあるように地域ポイント制度は他市でも行われている。予算規模は各市大小ある。多い市は千万単位だが少ないところは万単位で行えている。清瀬市の規模に合わせて予算を決めれば可能ではないかと思う。予算の関係で難しいということであれば、介護サポーター事業や健康ポイント制度にどれくらい支出しているかを知りたい。それを知ったうえで、結論を出してもよい。

委員：前向きな方向の議論として、商工会が絡んでいけないといけない。企業や会社で社会貢献的な義務を負わせる必要がある。そのような

動きの交渉は必要。市と商工会が会社と提携すればこの提案を行う人材は確保できる。

委員：松山緑地保全地域では企業と連携した保全活動を実施し整備している。

委員長：私個人の考えだが、人口ピラミッドの考えから、今後、高齢者が増えていく。この提案が実施されたとして、予算に見合った費用対効果が得られるのか難しいところだと思う。

委員：実施母体がしっかりしないと予算が付いたとしても実施は難しい。それに市民にとってこの提案は有意義かどうかわからない。

副委員：ピースは独立した事業として進んでいる。ピースのようにボランティアを支える団体を作るという提案はできるのか。

委員：ボランティアを支え、育てていくことは社会福祉協議会が行っている。

委員：ボランティアセンターはボランティアをやりたい人、募集したい人を仲介する場所だと思う。しかし現状ではボランティアをやりたい人は、何が求められているのか、募集したい人はどんなボランティアが使い勝手がいいのかわからず混乱していると思う。

委員：いままでの発言を整理したい。この提案の落としどころとして有償ボランティアはなしとし、ボランティアのベースを育むような事を回答に盛り込むということで理解した。

副委員長：ボランティアの活性化や、担い手がいないことへの提案と考えるので、そこに対しての意見は回答に盛り込むべきと思う。

委員長：今のこの段階でポイント制度に税金を使うことがいいのか、ボランティアが混乱しているなかで、時期尚早ではないのかと思う。

委員：現状ボランティアを依頼する時にどこに相談するかをはっきりさせたい。それがボランティアセンターであると思う。ポイントのためにボランティアを行っています。ではなく、ボランティアをする意識の積み重ねが大事である。そういうことが考えられる地域づくりから始めることがカギだと思う。

委員：その通りである。動ける範囲、空いた時間でやるのがボランティアであって、堅苦しいものではない。ボランティアはもっと自由にやれるものだと思っている。高齢者も時間がある方は少ないと思う。働いている方が多いのではないか、そのことがボランティアが増えない理由だと思う。

委員：確かにその通りである。

委員：お金に困っていない人は働かなくていい。お金に困っている人が働いている。そのように私は考える。

委員長：委員から発言があった健康ポイント制度の予算については次回の資料として提示すると同時に回答案も提示したい。次回の会議について、2月は会議を行わない。3月の会議だが、事務局の都合で変更したいとのことである。そのため、開催通知をしっかりと確認してほしい。3月の会議としては、今回の提案の回答案の検討とまちづくり委員としての今後あり方を決めていきたい。

次回の開催は3月18日（月）10時～ 男女共同参画センター会議室1，2